●しおがまし
塩竈市

発災後1週間の記録から実用的な防災を学ぶ

●しおがましつなみぼうさいせんたー
塩竈市津波防災センター

発災後の1週間に焦点を当て、あの時何が起き、人々は何を求め、状況はどう変化していったのかを日ごとに記録、展示しています。「7日間の記録」コーナーでは、被害状況や避難者数、インフラの状況、当時困ったことなどを記載。「ブレーカーを切る」など段階的に大切なこと、自分にできることが整理されているのでわかりやすく防災を学べます。「毛布や暖房器具が足りず寒かった」から「電気がつき、拍手して喜んだ」まで徐々に希望へと変化する被災した方の体験談にも注目してください。

ほかにも浦戸（うらと）諸島を含む塩竈市とその周辺の地形や津波浸水区域がわかる立体模型、津波・災害関連の資料や記録も展示。海上保安庁の巡視船まつしま（震災当時）が、地震発生の約1時間後に、海上で10mの大波を乗り越える映像の上映と、実際に使われていた羅針盤機器の展示も行っています。

塩竈市の被害状況

最大震度	6強
浸水面積	6㎢
最大浸水高	4.9m
全壊	672棟
半壊	3,278棟
一部損壊	6,993棟
死者	42人
行方不明者	
負傷者	11人

※被害状況のデータについては、注釈がないものはP.1下段に記載の資料に準拠
※空欄または「不明」としているものは準拠資料の通りに掲載

自分でジョグダイヤルとボタンを操作しながら、地震から7日間の記録を3画面ディスプレイで表示できる「知識の種」コーナー。震災当時の天気や市街地の状況がCGで再現されている

発災後7日間を1日ごとに記録したタペストリー。被害状況や避難者数、電気・水道・ガス・食料・交通・情報通信などインフラの状況を記載。塩竈市で撮影された、さまざまな津波の映像も常時上映している

展示スペースでは、浦戸諸島を含む塩竈市とその周辺の地形や津波浸水区域がわかる立体模型を見ることができる。津波についての解説資料、塩竈市への応援派遣職員のメモリアルプレートなどの展示も

考えてみよう

Q1 市営汽船が運休した際の浦戸住民の一時待機場所としての機能なども担っているため、館内には食料など多くの物が備蓄されています。来館者が自由に座れるよう箱型の椅子が置いてありますが、これは緊急時にある物に変わり、人々の役に立ちます。一体、何でしょうか？

A1 箱型の椅子は、集めると簡易ベッドに変身。倉庫には約1400人分のアルファ米や水、毛布なども備蓄している。

展示・交流拠点

施設ガイド　車椅子OK

施設DATA

●しおがましつなみぼうさいせんたー
塩竈市津波防災センター

☎022-794-7232　MAP P115C3

住 塩竈市港町1-4-1
交 JR本塩釜駅から徒歩10分
時 9～17時
休 月曜、第2火曜（祝日の場合は翌平日）、臨時休館あり
料 無料
P なし（マリンゲート塩釜駐車場など民間駐車場を利用）